

阪急阪神グループのメールサービス基盤を強化 FortiMailで高いセキュリティレベルとコスト削減を両立

阪急阪神グループの鉄道やビルシステムの開発・運用に当たるほか、阪神タイガース公認のインターネットサービスプロバイダー「Tigers-net.com」を運営するアイテック阪急阪神では、サービスの成長をにらみ、拡張性に優れたFortiMailを導入した。約400ドメイン、約25万アカウントを管理しながら毎時50万通のメール処理能力を実現するFortiMailは、ユーザーライセンスフリーのためコストの大幅削減にも貢献した。

導入・構築のポイント

- (1) FortiMail-3000Eの導入でISP/クラウド事業ならではの多数のドメインとメールアドレスを管理しつつ、ピーク時の流量に対応できる性能を実現
- (2) ユーザーライセンスフリーにより導入コストを4割削減したほか、スケーラビリティを享受
- (3) FortiAnalyzerによってメール配送の調査をGUIによって迅速かつ手軽に行えるようになり、サポート対応が改善

アイテック阪急阪神株式会社

本社所在地 大阪市福島区海老江1丁目1番31号
阪神野田センタービル
創業 1969年6月
設立 1987年7月1日
資本金 2億円 (株主/阪神電気鉄道株式会社、三菱電機株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社)
従業員数 約800名



アイテック阪急阪神株式会社
マルチメディア事業本部
IPソリューション部
ネットワーク技術課長
奥 裕之氏



アイテック阪急阪神株式会社
マルチメディア事業本部
IPソリューション部
ネットワーク技術課 主事
曾我部 智行氏

阪急阪神東宝グループの情報サービス事業会社で、鉄道やビルシステムの開発・運用に当たるほか、阪神タイガース公認のインターネットサービスプロバイダー「Tigers-net.com」を運営してきたアイテック阪急阪神。e-コマース時代を先取りしたECサイトパッケージ「HIT-MALL」で知られるほか、近年は高まるニーズを受け、クラウドサービスも展開し、広く個人・法人ユーザーを支えてきた。

アイテック阪急阪神 マルチメディア事業本部 IPソリューション部 ネットワーク技術課長の奥 裕之氏は「ベイ・コミュニケーションズをはじめ、地域のケーブルテレビ事業者の上位プロバイダーの役割を担っているISP事業が止まれば、数十万ものお客様に影響が及ぶこととなります。またクラウド基盤上で運用している企業のサーバに障害があれば、お客様の信用に関わる事態になります。万が一にもそうしたトラブルが生じないよう、機器はすべて冗長化するほか、サービスレベルが逼迫しないよう常に監視してきました」と述べる。

サービス自体の信頼性に加え、近年、顧客からの要求も高まっているのがセキュリティ対策だ。アイテック阪急阪神では多層防御の形でセキュリティソリューションを導入するだけでなく、設計・構築時からセキュリティを考慮することで、顧客をリス

クから守ってきた。

「例えばWebサイトを構築する際には、アイテック阪急阪神グループとして定めたセキュリティ規定を満たす形で、不要な通信ポートは開放しない形で構築するようにしていますし、個人情報を保存したデータベースはグローバルなインターネットからはアクセスできない設計としています。さらにセキュリティ診断を定期的実施し、クリティカルな問題が見つければ我々が責任を持って対処しています」(奥氏)

アイテック阪急阪神はこの多層防御の一環として、ファイアウォールのほか、受信メールに含まれるウイルスやスパムメールを排除するメールセキュリティ製品も導入していた。だが「アカウント単位で課金されるため、サービスが成長すればするほどコストがかさんでしまうことが課題だった」と奥氏は振り返る。ちょうど機器リプレイスのタイミングが近付いてきたこともあり、選択肢を広げ、次期メールセキュリティ製品の検討を2017年ごろから開始した。

多数のドメインやメールアカウントの管理機能と高性能を両立

ISP事業を提供する個人とクラウドサービスを提供する企業、合わせて約400ドメイン、約25万に上る電子メールアカウントを運用しているアイテック阪急阪神にとって、高性能は必須の要件だった。同ネットワーク技術課 主事の曾我部 智行氏によると、従来機種と同等のウイルスチェック、スパムチェック機能を備え、LDAP連携によるユーザー管理をサポートするといった要件を満たした上で、ピーク時には毎時50万



アイテック阪急阪神株式会社
マルチメディア事業本部
IPソリューション部
ネットワーク技術課
神澤 秀樹氏



通は処理できるパフォーマンスを求めているという。そこで浮上したのが「FortiMail-3000E」だった。

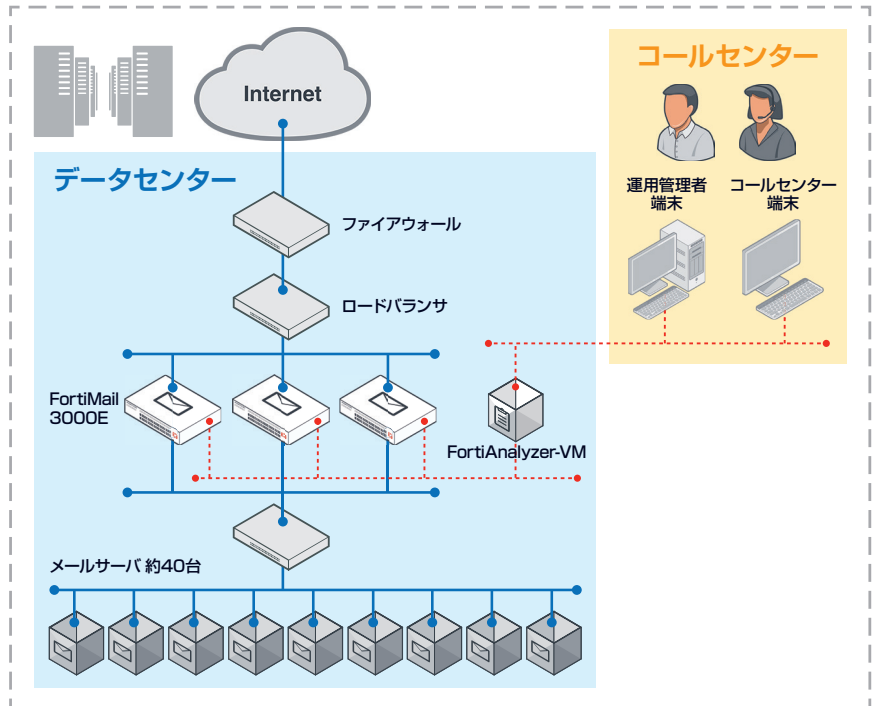
サイジングの結果、従来機種では4台構成でさばく必要のあったメールのトラフィックをFortiMail-3000Eなら3台でまかなえる見込みが立った上、アカウント数がどれほど増えてもユーザーライセンスフリーで利用できるコストメリットの大きさを評価し、採用を決定。同ネットワーク技術課の神澤 秀樹氏は「過去に小規模な顧客で導入した実績があり、GUIの使い勝手の良さを経験していたことも後押しになりました」という。

数百ものドメインを移行するには細心の注意を払ったが、「フォーティネットの支援をいただき、スムーズに構築することができました」と神澤氏は述べた。奥氏も「正直に言えば、これだけの数のドメインを移行するとなれば何か想定外の問題が起きるものだが、不思議なほど何も起きなかった」と振り返る。

ライセンスフリーにより 導入コストを4割削減、 FortiAnalyzerで サービスの自由度も向上

こうしてアイテック阪急阪神は2019年3月に導入プロジェクトを完了し、顧客へのサービスを開始した。導入コストは以前の機種に比べて約4割削減できた上、「ユーザーライセンスフリーなので、サービス利用者数が増えても価格は基本的に変わりません。この結果、より競争的な価格を設定したり、新しいサービスを企画するといったサービスの自由度が増しました」と奥氏は述べた。

また、FortiMail-3000Eと同時に導入した



FortiAnalyzerによって、日々のオペレーション業務も効率化できたという。

「以前は、『このメール、きちんと届いていますか』といった顧客からの問い合わせに対応するにも、3つのIDを使わないと追跡できませんでした。エンジニアではないコールセンターのオペレータのためにログを解析するツールを自前で作っていましたが、そのメンテナンスも負担となっていました。FortiAnalyzerによって、その調査が非常に早くなり、楽になりました」（神澤氏）。イベントハンドラを活用し、より複雑な条件でアラートを送信しイベントを検知する仕組みも実現できているという。

もちろん、FortiMail-3000Eの導入以降、一切課題がないというわけではない。しかし、そのつどフォーティネットのエンジニ

アと連絡を取りながら対処しており、中にはFortiMail OSの新バージョンに取り込まれる形で追加された機能もある。曾我部氏は「導入前はもちろん、導入時に判明した要望にも対応してもらい助かっています。柔軟かつ迅速な対応も信頼できます」と述べている。

アイテック阪急阪神は今後、東京大阪間に敷設した100Gbpsの回線を活用してパブリッククラウド事業者をはじめさまざまなプレイヤーと連携し、マルチクラウドサービスを展開していく方針だ。その中では「セキュリティ」も重要なキーワードになる。FortiMail-3000Eも生かしつつ、顧客の求めるさまざまなセキュリティサービスも組み合わせながら、新たなサービス作りに取り組んでいくという。

FORTINET

フォーティネットジャパン株式会社

〒106-0032
東京都港区六本木 7-7-7
Tri-Seven Roppongi 9 階
www.fortinet.com/jp/contact

お問い合わせ